

米国務省主催・日米共催 インドネシア FIRST Workshop in Jakarta に参加

JICC は、(一財) 海外産業人材育成協会 (AOTS) と連携し、米国務省 (US-DOS) に協力して FIRST ワークショップの準備を行うとともに、同協会が実施する経済産業省委託事業の専門家として、3月3日～5日にインドネシア・ジャカルタで、US-DOS 主催、日本側は AOTS が共催し経済産業省も参加の下で開催された FIRST ワークショップに参加し、講義および指導を行った。また、アジェンダ構成、会場調整、参加者募集等についても、US-DOS および AOTS と連携して対応した。同ワークショップには原子力産業界より日本原子力発電株式会社、IHI、JGC から AOTS 専門家として参加があり、講義が実施された。

【経緯/目的】;

インドネシア政府は、2060年ネットゼロ達成に向け、国家エネルギー政策や電力開発計画において原子力発電導入の検討を進めている。本 Workshop は日米インドネシア協力の下、SMR 技術の責任ある利用に関する知見共有および人材育成を目的として実施された。

【実施内容】;

本 Workshop には、国家エネルギー評議委員会 (DEN)、エネルギー鉱物資源省、外務省、原子力規制庁、国家電力会社 (PLN) 等の関係者約 150 名が参加した。DEN 事務総長、在インドネシア米国臨時代理大使、日本臨時代理大使による開会挨拶のほか、PLN 社長および DEN によるキーノート、原子力基盤整備に係る講義やクラスディスカッションが行われ、盛況のうちに開催された。

【成果】;

- ① Workshop において、日本側は AOTS 専門家として、福島後の規制制度・許認可プロセス、サイト要件、人材育成、ステークホルダー・エンゲージメントに加え、SMR 建設に向け重要となる原子力機器製造、EPC およびサプライチェーン構築についても IHI、JGC より講義を行い活発な意見交換が行われた。
- ② Workshop に先立ち、METI の参加の下、DEN への表敬訪問を実施し、原子力導入計画や政策動向について共有するとともに、IAEA マイルストーンに基づく今後の協力の方向性について意見交換を行った。
- ③ Workshop および関連会合を通じ、インドネシアの原子力導入に向けた課題認識を共有し、原子力基盤整備や原子力機器製造・EPC 及びサプライチェーン構築等の産業基盤整備の重要性についても認識を深めるとともに、日米協力の下での継続的支援の必要性を確認した。

